

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	施策	① 国内外における文化交流の推進と発信力の強化	
			施策の小項目名	○沖縄文化を軸とした国内外との交流・発信	
主な取組	世界エイサー大会開催支援事業			実施計画記載頁	55
対応する主な課題	①文化は交流により育まれ、互いの文化を理解しあうことにより発展するため、国際的な文化交流イベントから草の根レベルの交流活動まで幅広い取組を強化していくことが求められている。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
エイサーを新たな観光資源として、さらに魅力を高め、本県の観光、文化振興に結びつけていくとともに、青年交互の交流と青少年の健全育成を図る事を目的に、エイサー発祥の地、沖縄で県内外、海外のエイサー団体を集めた世界大会を実施する。						
実施主体	文化振興会	民間主体による大会開催				
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】					

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
エイサー普及啓発事業									○H29年度: 平成25年度から民間主体へ移行しているため、大会開催にあたり、事業の共催や実行委員として運営に関わるなどの側面的な支援を行った。 ○H30年度: 大会開催にあたり、事業の共催や実行委員として運営に関わるなど側面的な支援を行う。
県単等	委託	17,099	21,400	18,606	—	—	—		
エイサーエキスポ委託事業費									○H29年度: — ○H30年度: —
一括交付金(ソフト)	委託	—	—	—	8,616	—	—		

様式1(主な取組)

活動指標名	民間主体による大会開催				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	大会開催	—	100.0%	0	順調	平成25年度から民間主体へ移行しており、世界エイサー大会の開催にあたって、県では事業の共催や実行委員として運営に関わるなどの側面的な支援を行った。
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
										進捗状況の判定根拠と取組の効果
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
民間主導の事務局による関係団体及び市町村との連携強化や、過去の事業実施で培ってきたエイサーの交流ネットワークを活用した文化交流の推進と発信の手法を検討していく。						これまでの取組や交流のネットワークにより、海外2団体、県外5団体を含む、延べ31団体のエイサーを一挙に観覧できるプログラムだけでなく、エイサー等を通じた体験型文化交流等を組み込んだ大会の実施へと繋げることができた。				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・世界エイサー大会については、平成22年度から平成24年度までの3年間は県主導による実行委員会を実施し、「エイサーを活用した新たなイベントの創出」、「エイサーの魅力を国内外へ発信」、「エイサー団体の相互交流」といった事業目的を一定程度達成した。平成25年度からは民間主導型へ移行し、県として側面的な支援を行っている。

○外部環境の変化

—

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・民間主導の事務局による関係団体及び市町村との連携強化や、過去の事業実施で培ってきたエイサーの交流ネットワークを活用した文化交流が推進できるよう側面支援を行う必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・民間主導の事務局による関係団体及び市町村との連携強化や、過去の事業実施で培ってきたエイサーの交流ネットワークを活用した文化交流が推進できるよう側面支援を行っていく。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	施策	① 国内外における文化交流の推進と発信力の強化	
			施策の小項目名	○沖縄文化を軸とした国内外との交流・発信	
主な取組	沖縄の音楽産業振興の推進			実施計画記載頁	55
対応する主な課題	②沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
沖縄国際アジア音楽祭については、沖縄の音楽を文化産業として発展させることを目的として、様々なライブステージイベント等を開催している。さらなる目的達成のため、沖縄の音楽産業の発展に関する音楽カンファレンスを音楽祭と連携して開催する等し、沖縄音楽産業の効果的な振興を図る。						
実施主体		沖縄音楽産業の振興に資する取組への支援				
担当部課【連絡先】		文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】				

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	○H29年度: 音楽イベントや音楽交流団体への支援により県内外や海外へ沖縄音楽の魅力を発信し沖縄音楽産業の振興に資することができた。 ○H30年度: 音楽産業を側面的に支援することで、県内外や海外へ沖縄音楽の魅力を発信し沖縄音楽産業の振興に資する取組を行う。
—	—	—	—	—	—	—	—	—	○H29年度: ○H30年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	沖縄音楽産業の振興に資する取組への支援				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		—	—	—	—	3件	—	100.0%	0	順調
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
<p>沖縄の音楽産業の発展に資する取組みのあり方を検討していく。</p>						<p>沖縄の音楽産業の発展に資する取組のあり方を検討し、音楽イベントや音楽交流の取組が推進できるよう側面的に支援することで、県内外や海外へ沖縄音楽の魅力を発信し沖縄音楽産業の振興に資することができた。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・過去に県主導で実施した音楽イベントは民間へ移管しているが、今後とも音楽産業の発展に資する支援が必要となる。

○外部環境の変化

—

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・今後も沖縄の音楽産業の発展に資する取組を継続して行う必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・音楽産業を側面的に支援することで、県内外や海外へ沖縄音楽の魅力を発信し沖縄音楽産業の振興に資する取組を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	施策	① 国内外における文化交流の推進と発信力の強化	
			施策の小項目名	○沖縄文化を軸とした国内外との交流・発信	
主な取組	文化観光戦略推進事業			実施計画記載頁	55
対応する主な課題	②沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
外国人観光客に向けた沖縄の文化・芸能を活用した観光コンテンツの промоーションを実施する。						
実施主体		外国人観光客に向けた文化観光コンテンツのセールスプロモーション				
担当部課【連絡先】		文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】				

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名	文化観光戦略推進事業						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ソフト)	補助	90,840	198,938	162,520	74,281	78,151	71,421	一括交付金(ソフト)	○H29年度: 海外の日本旅行情報発信サイトや旅行代理店等と連携を図るとともに、舞台公演ガイドの多言語化を実施した。 ○H30年度: 海外の日本旅行情報発信サイトや旅行代理店等と連携を図るとともに、舞台公演ガイドの多言語化を実施する。
予算事業名	—						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
									○H29年度: ○H30年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	外国人観光客に向けた文化観光コンテンツのセールスプロモーション				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		—	—	—	—	多言語化の 実施	—	100.0%	78,151	順調
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
外国人観光客を対象とした県内公演の情報発信を継続的に行うとともに、県内での公 演鑑賞を行いやすい環境を整える。						海外の日本旅行情報発信サイトや旅行代理店等と連携を図り情報発信を行うととも に、公演チケットの預託販売を実施することで、県内で実施する舞台公演の鑑賞に繋げ ることができた。				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

—

○外部環境の変化

- ・台湾や韓国をはじめアジア地域を中心に、海外からの入域観光客数が増加傾向にある。
- ・那覇-バンコク、シンガポール間に新たに直行便が就航するなど、東南アジア地域からの入域観光客の増加が見込まれる。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・外国人観光客を対象とした県内公演の情報発信を継続的に行うとともに、県内での公演鑑賞を行いやすい環境を整える必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・外国人観光客を対象とした県内公演の情報発信を継続的に行うとともに、県内での公演鑑賞を行いやすい環境を整える。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化	
			施策の小項目名	○沖縄文化を軸とした国内外との交流・発信	
主な取組	沖縄県空手振興事業			実施計画記載頁	55
対応する主な課題	③先人が築き上げた伝統文化である沖縄空手の保存・継承・発展のために、沖縄空手会館を拠点とした国内外への情報発信や空手愛好家の受入体制強化、後継者育成が必要である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容	年度別計画				
	29	30	31	32	33
<p>沖縄空手を保存・継承・発展させるため、国際セミナーの開催や指導者の海外派遣等を実施し、国内外における沖縄空手の普及・啓発並びに世界の空手愛好家の来訪促進を図るとともに、指導者・後継者の育成を図る。</p>	国際大会開催による国内外空手愛好家の来訪促進				
	沖縄空手の目指すべき将来像を定めた沖縄空手振興ビジョン(仮称)の策定				
	沖縄空手国際セミナー 1回				→
	空手の日記念演武祭 1回				→
	海外指導者派遣 2カ国				→
実施主体	県		沖縄空手会館を中心とした沖縄空手の情報発信、指導者及び後継者の育成		
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部空手振興課		【098-866-2232】		

様式1(主な取組)



2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位:千円)			
予算事業名 沖縄県空手振興事業							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H29年度: 沖縄空手を振興するため、①沖縄空手振興ビジョンの策定、②空手関係イベント開催及び国際大会の準備、③空手会館を拠点とした利活用事業等を展開 ○H30年度: 沖縄空手を振興するため、①空手振興ロードマップ(仮称)の策定、②空手関係イベント及び国際大会の開催、③空手会館を拠点とした利活用事業等を展開	
一括交付金(ソフト)	委託	—	—	—	—	230,536	170,751	一括交付金(ソフト)		
予算事業名 —							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H29年度:	
									○H30年度:	

様式1(主な取組)

活動指標名	沖縄空手国際セミナー				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		1回	1回	1回	1回	1回	1回	100.0%	230,536	順調
活動指標名	空手の日記念演武祭				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	1回	1回	1回	1回	台風による 中止	1回	90.0%			
活動指標名	海外指導者派遣				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	2カ国	2カ国	1カ国	2カ国	4カ国	2カ国	100.0%			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度 of 取組改善案						反映状況				
<p>平成29年3月に沖縄空手の発信拠点となる沖縄空手会館を供用開始した。沖縄空手の振興に向けた本格的な事業を展開する体制を構築し、これまで以上に空手界、行政等が連携して沖縄空手を広く発信し、普及・発展を図りつつ、指導者・後継者の育成を図っていくよう、一層の空手振興に向けた事業施策を検討する。</p>						<p>沖縄空手の保存・継承・発展に向けて、平成29年度に行政、空手関係者、学識経験者、経済界等で構成する沖縄空手振興ビジョン(仮称)策定委員会及び同部会を立ち上げて議論を重ね、平成30年3月に「沖縄空手振興ビジョン」を策定した。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・平成30年3月に沖縄空手振興ビジョンを策定し、今後は、行政、空手関係者、経済界等がこれまで以上に連携して沖縄空手を広く発信し、普及・発展を図りつつ、指導者・後継者の育成を図る必要がある。

○外部環境の変化

・平成29年3月に、沖縄空手を国内外に発信する拠点となる「沖縄空手会館」を供用開始し、今後は空手会館を中心とした沖縄空手の振興に向けた事業展開に取り組む。
・2020年東京オリンピックにおいて、空手が追加種目として採用されたことから、「空手発祥の地・沖縄」を世界に発信する絶好の機会と捉え、より一層効果的な事業の推進に取り組む。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・沖縄空手の保存・継承・発展に向けて、平成29年度に行政、空手関係者、学識経験者、経済界等で構成する沖縄空手振興ビジョン(仮称)策定委員会及び同部会を立ち上げて議論を重ね、平成30年3月に「沖縄空手振興ビジョン」を策定した。今後は、同ロードマップの策定に向けて取り組むとともに、行政、空手関係者、経済界等がこれまで以上に連携して沖縄空手を広く発信し、普及・発展を図りつつ、指導者・後継者の育成を図る必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・沖縄空手の保存・継承・発展に向けて、平成29年度に行政、空手関係者、学識経験者、経済界等で構成する沖縄空手振興ビジョン(仮称)策定委員会等で議論を重ね、平成30年3月に「沖縄空手振興ビジョン」を策定した。今後は、同ロードマップの策定に向けて取り組みながら、関係者がこれまで以上に連携して「空手発祥の地・沖縄」及び「沖縄空手会館」を広く発信し、普及・発展を図りつつ、指導者・後継者の育成を図る。

様式1(主な取組)

活動指標名	学術的・文化的な交流推進				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	実施	実施	—	100.0%	9,978	順調	<p>活動概要</p> <p>ハワイ大学等との協力体制を構築するため、現地での研修会、授業実践の視察を行った。「しまくとぅばカリキュラム研究会」を月2回開催し、県立芸術大学でもしまくとぅばを取り入れた授業(舞踊実技、地謡実技、組踊実技)を実践するなど、芸能で使われる独特の語彙を集めるなど教材の作成に向けて取り組んだ。</p> <p>進捗状況の判定根拠と取組の効果</p> <p>ハワイ大学ヒロ校ハワイ語学部・同附属学校園等と、現地での研修会、授業実践の視察を行うことで、学術的・文化的な交流を推進し、協力体制を構築した。また、「しまくとぅばカリキュラム研究会」を月2回(計24回)開催し、県立芸術大学でもしまくとぅばを取り入れた授業(舞踊実技、地謡実技、組踊実技の3科目)を実践するなど、芸能で使われる独特の語彙を集めるなど教材の作成に向けて取り組んだ。</p>
活動指標名					H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
<p>本プロジェクト主催による「しまくとぅばカリキュラム研究会」を月1回開催し、言語・文化、音楽・芸能、美術工芸の専門用語として用いられている「しまくとぅば」を洗い出すことから始めるなど、帰納的なアプローチが有効だと考える。</p>						<p>「しまくとぅばカリキュラム研究会」を月2回(計24回)開催したほか、しまくとぅばを取り入れた授業(舞踊実技、地謡実技、組踊実技の3科目)を実践するなど、芸能で使われる独特の語彙を集めるなど教材の作成に向けて取り組んだ。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・沖縄における音楽芸能・美術工芸の伝承と創造の現場において、文化としてのしまくとぅばの教材化がされていない。

○外部環境の変化

—

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・ハワイ大学ヒロ校では、ハワイ語での授業実践のみならず大学の講義へハワイ語を組み込んでいる。同校のカリキュラムや授業実践体制、大学運営の方法、マニュアルの作成方法などと照らし合わせ、県立芸術大学とハワイ大学ヒロ校の教員間でのディスカッションを通して、しまくとぅば独自の教育方法などを探る必要がある。

・教材として「しまくとぅば」を活用し、理解を深めることで、地域に根差した美意識や感情表現を身につけ、沖縄の伝統文化の継承に繋げる必要がある。

4 取組の改善案(Action)

当事業は平成29年度で終期を迎えるが、後継事業である「しまくとぅば実践教育事業」において、実践授業や島しょ文化学及び琉球文化研究の視点を取り入れ、しまくとぅばによる芸術実践教育の構築を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	施策	① 国内外における文化交流の推進と発信力の強化	
			施策の小項目名	○文化発信交流拠点の形成	
主な取組	文化発信交流拠点の整備			実施計画記載頁	56
対応する主な課題	②沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
沖縄独自の文化の保全・継承や芸術文化創造活動等を持続可能なものとするため、グローバルな文化の受信・発信機能、プロフェッショナルな芸能の創造・継承機能、専門人材の育成機能を持つ文化発信交流拠点を整備する。						
実施主体		文化発信交流拠点の整備				
県						
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】					

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名	文化発信交流拠点整備事業						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	委託	15,906	7,847	207	251	10,217	447	県単等	○H29年度: 都市計画等に関する条件整理や調整を進め、実施計画策定業務の企画公募を行い契約を締結した。 ○H30年度: 関係機関との調整を進め、実施計画の策定に向けて取り組む。
予算事業名	—						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
									○H29年度: ○H30年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	文化発信交流拠点の整備				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要		
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B					
	—	—	—	—	実施計画の 策定	—	80.0%	10,217	概ね順調	浦添市の都市緑地への文化発信交流拠点の整備に向け、都市計画等に関する条件整理や調整を進め、実施計画策定に向けて取り組んだ。		
活動指標名	—				H29年度					実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度								
										都市計画等に関する条件整理や調整を進め、実施計画策定業務の企画公募を行い契約を締結したことにより、文化発信交流拠点の整備に向けた取組が着実に推進している。		
活動指標名	—				H29年度			実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度								
(2)これまでの改善案の反映状況												
平成29年度の取組改善案						反映状況						
都市計画決定を行わない施設整備のあり方も含め、引き続き、浦添市をはじめとする関係機関との連携の強化を図るとともに、施設整備に係る要件整理や施設整備場所の検討に係る委託業務を実施する。						都市計画等に関する条件整理や調整を進め、実施計画策定業務の企画公募を行い契約を締結した。						



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

- ・施設整備基本計画において施設整備エリアとして決定したエリアは、都市計画決定を受けた都市緑地であることから、都市計画関連の条件整理や調整に時間を要する。
- ・当該都市緑地の整備の事業主体は浦添市である。

○外部環境の変化

- ・那覇市新市民会館や琉球新報ホールが整備されることにより、那覇市内における劇場機能が強化される。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・引き続き、浦添市をはじめとする関係機関と調整を進めるとともに、外部環境の変化も考慮しながら、実施計画の策定に向けて取り組む必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・関係機関との調整を進め、実施計画の策定に向けて取り組む。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	施策	① 国内外における文化交流の推進と発信力の強化		
			施策の小項目名	○文化発信交流拠点の形成		
主な取組	琉球王国文化遺産集積・再興事業			実施計画記載頁	56	
対応する主な課題	②沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。					

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
戦災等により失われた8分野の工芸品製作のティーワジャ(手わざ)など王国時代の精緻で至高の技の世界を現代に蘇らせ、世界に誇る沖縄の手わざの力をモノを通して国内外へ発信し、琉球王国文化をブランドとした文化観光拠点として沖縄をアピールする。		復元品の製作(累計)		58件		
実施主体	県	王国文化遺産の再興による復元品製作			復元した王国文化遺産の発信・展示公開	
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課	【098-866-2768】				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況							(単位:千円)			
予算事業名 琉球王国文化遺産集積・再興事業							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
一括交付金(ソフト)	委託	—	—	39,993	150,657	182,097	104,202	一括交付金(ソフト)	○H29年度: 王国時代の手わざを現代に蘇らせるため、復元品の製作を行い、絵画1件、石彫2件、染織5件、金工2件、三線1件、計11件の復元品が完成した。 ○H30年度: 王国時代の模造復元品18件の製作、及び前年度に実施した復元作業状況や製作工程で得られた知見を発表する報告会を実施する。	
予算事業名 —							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H29年度:	
									○H30年度:	

様式1(主な取組)

活動指標名	模造復元品の製作(累計)				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		—	—	—	7件	18件	—	100.0%	182,097	順調
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
<p>①適正な製作を行うため8分野の監修者会議を開催する。また、模造復元資料の製作過程を論文等で発表する。</p> <p>②展示発信に係る県内博物館等施設との検討調整を行う。</p>						<p>①模造復元製作のための監修者会議を8分野ごとに各2回実施した。木彫の模造復元の製作過程について、「沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要第11号」にて論文発表し(「旧円覚寺仁王像復元制作に関する研究」)、また、本事業の報告会を2回(H29年4月、H30年2月)実施した。</p> <p>②当館での取組を、県内離島(八重山、宮古、久米島)、及び九州、関東の県外の施設で紹介するため、展覧会等の発信事業に関する調整を行った。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・復元品の製作が平成31年度までかかるため、事業効果の検証方法を工夫する必要がある。

○外部環境の変化

・復元品の製作は失われた手わざの再現であることから、試作を行いながら、慎重に進めているが、8つの各分野において、素材、技法など新たな課題に対応する必要がある。

・他館での展覧会の実施においては、連携体制について引き続き十分な調整を要する。特に県外で実施する場合は、琉球王国文化に興味を持ってもらうため広報活動に力を入れる必要がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・復元品の製作は、監修者と製作者の情報共有等の連携を強化するとともに、復元品の製作工程管理に万全を期する必要がある。
- ・事業の発信は、製作工程に合わせて効果的な発信方法を工夫しながら実施する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・質の高い復元を行うため、監修者会議や製作者と綿密に連携しながら、新たな課題に対応しつつ、完成までの工程管理を行う。
- ・本事業の周知並びに、王国文化の理解、活用の促進のため、これまでの復元作業状況や製作工程で得られた知見等を発表する報告会等を実施する。